

第42回(200%)例会報告

日時：2006年4月18日(火) 12:00 ~ 13:30
場所：富山第一ホテル 3F 白鳳の間



L. 船山護

雪が多く、長かった今年の冬。皆が待ち侘びた春の訪れ。そんな我々の気持ちを汲んでくれたかのように、第42回(200%)例会は、天気晴朗、桜満開のもとで開催されました。

来賓は県内外のライオンズクラブからの多彩な顔ぶれであったためか、日頃の例会とは多少異なった雰囲気の中で進行。リハーサルにも多少の緊張感が……。ベテラン司会者奥野しさえ、いささか緊張気味？新入会員鈴木さんはタイミングのよい？入会式でお疲れさま。しかし、流石は兵ぞろいの富山いきいきライオンズクラブ、中盤からは、日頃の雰囲気に戻って堂々たる例会との印象を受けました。



前キャビネット幹事の松田重治Lの講演で「NPOは有名でブランド、ライオンズクラブはデパート。ライオンズクラブメンバーの脱会は3年以内が多いが、その人達はクラブのすばらしさを知ることが出来なかった故に脱会したのでしょう。ライオンズクラブは常に発展途上国。いつも明るい方向に向かっている。」等の言葉が心に残りました。

アクティビティ「松川 鯉のぼり撤去作業」

日時：2006年5月6日(土) 16:00 ~ 17:00
場所：富山市役所南側松川「塩倉橋」近く



5月6日土曜日、曇り空の中、鯉のぼりの撤去作業が行われました。参加人数はゴールデンウィーク中という事もあり、ちょっと少なめの8名。高い場所の作業は、掲揚した時

めて畳み、箱詰めにて完了。もう少しと思った頃に、赤いadidas T シャツを着た親子登場！岡部しと4歳のしげ君(実は車の中には奥様も……)。楽しみにしていた鯉のぼりには会えず無念のしげ君、時間を30分間違えたお父さんに責任有！作業終了まで少しの時間があり待っている間、松川周辺で遊ぶ事に。かけっこ開始！4歳のしげ君に負けまいと本気を出して走り、息切れ……。撤去作業も忘れ遊んでいると作業終了。



と同様、牛島会長、石黒Lにお願いし作業開始。寺腰Lが苦労して幾つもの承認を得、手配をして行ったアクティビティ。3週間、松川を彩った鯉のぼりをロープから外し「松川を彩ってくれてありがとう」と感謝の心を込

め新緑が眩しい5月の松川べり。元に戻っただけなのに殺風景に思え、この瞬間、次年度もこのアクティビティを続けなければと。そして更に、北日本新聞朝刊の鯉のぼりの投稿記事で思いを強く持った。

「こがつかせに さそわられて きらきはたたく ふきなごし くるくるまわるよ かきぐるま おもしろそうに およいでる。五歳の孫が、口ずさみながら一生懸命に紙に書いてくれた歌詞です。こいのぼりの歌に、二題目(二番)があるとは知りませんでした。『ばあちゃん、本当に知らんか？ 保育所で習わなかったが』。孫は不思議そうに、私の顔をのぞき込みます。

こいのは、たんさんのこいのぼりを見る事ができました。松川の遊覧船から見上げた満開の桜とヒルの谷間のこいのぼり、グリーンパーク吉峰で泳いでいた大小さまさまなこいのぼり。どれも色鮮やかで美しく、家族や祖父母の深い愛情が感じられ、いつまでも

こいのぼり 立山町宮路 土井 慧子

見飽きない光景でした。速い昔、長男が生まれたとき、母方の大叔父が京都の問屋に注文し、こいのぼりをあつらえてくれました。ところが、新婚帯には大きすぎて手に余り、二男の入学を機に地元の小学校に寄付をして、代わりに掲げていただきました。あのころは、こどもの日の近くに小運動会がありました。校舎屋上の二本のポールに国旗と並んで、こいのぼりがはためくのです。一年に一回会える喜びで見に行きました。軽いナイロン製のものとは違い、重い木綿の大きなこいのぼりの扱いは、苦勞をおかけしたことでしよう。感謝の念でいっぱいです。やっと思えたこいのぼりの歌詞を歌っている『ばあちゃん、もう、こいのぼり終わっだよ』と孫の声。来年は、こい出しそびれた箱の中から、かわい孫のこいのぼりを出し、大空に泳がせてあげなくては。



《参加者》
牛島会長、三井幹事、石黒L、岡部L、奥野L、矢島L、山口L、山澤